

「東京港総合渋滞対策」意見交換会 意見要旨

トラック事業者の現状

- 海上コンテナ輸送事業者の実態は、運転者の不足に加え、高齢化が進んでいる。コンテナターミナルにおける長時間待機により、労働時間が長く低料金のため儲からないというイメージが根付いてしまい、新たな運転者が集まらない実態となっており、今後運転者不足は重大で深刻な問題になることが想定される。年末年始等の繁忙期には運転者不足から車両の手配ができず、東京港から名古屋港に揚げ地を変更した例もある。
- 燃料の高騰や高速道路の割引終了などもあり、トラック事業者は困窮している。顧客に対して適正な運送料金への値上げ交渉も行っているが、厳しい状況である。今後は顧客も、ドレージコストの増加により東京港の利用を検討する可能性があるため、都としても動向を注視し、適正な対応をしてほしい。
(一般社団法人 東京都トラック協会)

車両待機場の整備

- ふ頭エリアにおける交通事故を防ぐためには、一般車両とコンテナ車両の住み分けが必要。その手段として、車両待機場の整備は有効であるので、整備を推進していただきたい。
(一般社団法人 東京港運協会)
- 青海コンテナふ頭については、新たに中央防波堤外側に整備した車両待機場の活用により、道路へのコンテナ車の並びがなくなった。
(ターミナルオペレーター (山九株式会社))
- 車両待機場の整備自体は公道の渋滞緩和策として歓迎するが、海上コンテナ輸送事業者にとっては待機する場所が変わるだけで待機時間そのものは何ら変わっていない。中央防波堤外側車両待機場と青海コンテナふ頭の往復では走行距離が約10 km増となり、燃料代だけでも約1,000円のコストアップになっているのが現実である。
- ICP (インターチェンジポイント) はいろいろと課題があることは認識しているが、平準化を図る意味からも、大井ふ頭に整備予定の車両待機場をICPのシャトル方式による受渡し場所として運用し、車両の待機時間縮減を図ってほしい。海上コンテナ輸送事業者としても、一部費用負担が必要であれば考えていきたい。
(一般社団法人 東京都トラック協会)

早朝ゲートオープンの実施

- 早朝ゲートオープンに加え、夕方のゲートオープン時間も取扱数量に見合った時間に延長をお願いしたい。また、特に繁忙期等についてはその都度ゲートオープン延長の定例的な対応をお願いしたい。

(一般社団法人 東京都トラック協会)

- 早朝ゲートオープンを実施するに当たっては、早出の時間外勤務による対応をとっているが、早朝出勤が可能な労働者による作業体制を編成している。このため、それら労働者の中には早出の負担感が大きいとの意見も出されており、今後に向けて安定的な実施体制の確保が厳しい現状がある。今後のY1、Y2の供用開始による取扱量の平準化など、今後の状況をみていく必要がある。

(一般社団法人 東京港運協会)

- ターミナルまでの公共交通機関が確保されておらず、必然的に現場に近接している従業員に割り当てられる頻度が高くなっている。そのため、従業員や労働組合から理解を得るのが難しくなっている。

(ターミナルオペレーター (山九株式会社))

コンテナターミナルの処理能力向上

- 波動性のあるコンテナ物流に対し、ターミナルは柔軟に対応してくれている。
- 混雑状況に応じて、昼休みや早朝のゲートオープンの拡充など、これまで以上に積極的に取り組んでいる。

(東京港埠頭株式会社)

- 青海公共ターミナルにおいては、荷役機械の増設により効率化を図っている。将来的に種地が確保できるのであれば、現在のストラドルキャリア方式からテナー方式に変更することで、更なる効率化を図りたい。

- 最近の青海公共ターミナルは、16時から17時には並んでおらず、18時頃には終了している。取扱量を維持しつつも、終了時間は早まっている傾向にある。

- 年末年始や5月の連休等、繁忙期に利用可能なバンプールがあれば、ターミナル内のスペースが確保され、より効率的にコンテナをさばくことができる。

(ターミナルオペレーター (山九株式会社))

- 渋滞解消には、コンテナターミナルの分散化が有益である。中央防波堤外側の新規ターミナルの整備や第8次改訂港湾計画で予定している大井水産物ふ頭のコンテナふ頭化は有効である。

(一般社団法人 東京港運協会)

オリンピック・パラリンピック開催等を見据えた交通対策

- 中央防波堤地区の交通量が近年増加しており、今後も増加が見込まれるが、現在、内側と外側を結ぶ道路は中防大橋のみである。都環境局が使用している中潮橋の通行をお願いしたいところであるが、オリンピック競技施設建設のため、撤去が予定されていると聞いている。臨港道路南北線の開通まで待つことはできないので、仮橋の設置など検討いただきたい。

(一般社団法人 東京港運協会)

- 中央防波堤地区の混雑対応を検討していただきたい。今後Y1、Y2ターミナル運用開始に伴いコンテナ車両・工事車両が増加することに加え、2020年オリンピック・パラリンピック開催に向け工事車両等の流入も考えられ更に交通渋滞が悪化する事態が想定されることから、早急に対策の手を打つ必要があると考える。

(一般社団法人 東京都トラック協会)

- オリンピック・パラリンピック開催に向け、交通事情も変わってくるので、有効な対策の検討をお願いしたい。

(警視庁東京湾岸警察署)

その他渋滞対策全般

- コンテナ車両の渋滞による事故など、一般交通に影響が出ないように、しっかりとした対策をお願いしたい。

(警視庁東京湾岸警察署)

- 渋滞解消に向け、業界が主体的に検討・議論する場として勉強会の立ち上げを予定している。今後、関係者の意見を取り入れながらアイデアを出していきたい。
- 輸入の割合が高い東京港においては、片荷輸送を極力なくしていくためにも、荷主間でのコンテナのマッチングが必要である。促進に向け、広域的な観点から検討を進めてほしい。
- シャーシーを一元管理し共同利用すれば、無駄な輸送が省けるのではないか。京浜三港で広域的に協力して行うスキームなど、引き続き研究をお願いしたい。

(一般社団法人 東京港運協会)

- 東京港ポータルサイトでは、ギャング数など、荷役体制に関する情報提供も行っている。今後も、関係者の協力を得ながら、更なる充実を図っていきたい。
- 渋滞緩和に向けた信号現示の変更やWebカメラの増設を予定しており、調整が整えば今年度中にも実施したい。

(東京港埠頭株式会社)

- 東京都トラック協会海上コンテナ専門部会としても、混雑渋滞による長時間待機の解消に向け港湾関係者の皆様と様々な対策を協議し改善を図って参りたく、引き続きご協力の程、よろしくお願ひしたい。

(一般社団法人 東京都トラック協会)